卒業論文

「平成の大合併」と地域集団
――婦人会と青年団の事例から――

2013 年度入学

文学部　人文学科人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2017 年 1 月提出

要約

この論文の目的はいわゆる「平成の大合併」によって住民生活に起きた影響を婦人会や青年団といった地域集団の変化を通して明らかにすることである。

まず、1 章では「平成の大合併」の検証が進んでいない現状を提示したうえで、この論文の目的を提示した。

2 章では「平成の大合併」の概要を整理している。そのなかで総務省が 2010 年に発表した『「平成の合併」について』をとりあげ、「平成の大合併」によって考えられる地域への好影響と悪影響を整理した。そして、現時点で「平成の大合併」の検証をする意義と分析の際に留意すべき点をまとめている。

3 章では先行研究として高野和良の調査と鈴木栄太郎の考えについてまとめた。高野による日田市中津江村の調査では合併によって婦人会のような地域に集積する集団に影響があったことが明らかになった。また、鈴木栄太郎による「自然村」論についても触れ、いわゆる「第二社会地区」に集積する地域集団の存在が「村の精神」を作り上げていることについてまとめた。そしてこれらの先行研究の整理を通し、地域集団の変化に着目して住民の生活を捉えることの重要性を示した。

4 章では前章までの内容を整理したうえで、この論文で明らかにしていくべきことを分析の焦点として 4 つ提示した。

5 章では調査地を選定し、その現状についてまとめた。本調査では調査地を鳥取市に設定している。鳥取市の合併が「編入合併」の形式をとっており、合併によって「周辺部」となった町村への影響が考えられることから調査地に選んだことを説明している。また、鳥取市の人口の動きなど基本的な情報についても触れている。

6 章では実際に行った婦人会員への聞き取り調査の内容を扱っており、その結果を整理、考察している。婦人会員への聞き取りでは、市町村合併後に婦人会の活動が縮小していることや婦人会の運営の担い手の負担が大きくなったことなどが明らかになった。

7 章では青年団員への聞き取り調査の内容を扱っており、その結果を整理、考察している。青年団員への聞き取りでは、合併で活動が縮小した青年団がある一方で、活動が再び活発になっている青年団が存在することなどが明らかになった。

8 章では前章までに行った先行研究の整理や 2 つの聞き取り結果をもとに分析をしてい

る。ここでは、4 章で設定した焦点に沿って「地域集団が地域において果たす機能」、「地域集団の活動が困難になった要因」、「地域集団の衰退が地域に与える影響」、「地域集団が維持されるのに必要な条件」の 4 項目について分析を行った。

そして最後に論文の結論として、「平成の大合併」が地域集団に与えた影響、それによって今後起こりうる問題について述べたうえで、今後の地域社会が市町村合併の影響を乗り越えるための方策についても述べて論文を結んでいる。

目次

1　はじめに

2　「平成の大合併」の概要

2.1　日本における「大合併」の歴史と「平成の大合併」

2.2　総務省の『「平成の合併」について』

2.3　「平成の大合併」を扱う意義と留意点

3　先行研究の整理

3.1　先行研究の選定

3.2　高野和良による大分県中津江村の調査

3.3　鈴木栄太郎による「自然村」論

3.4　先行研究のまとめ

4　分析の焦点と分析方法

5　調査地・鳥取市の現状

5.1　調査地の選定

5.2　鳥取市の人口の動き

6　婦人会

6.1　聞き取りの概要

6.2　聞き取りの結果

6.3　聞き取り内容の整理・考察

7　青年団

7.1　聞き取りの概要

7.2　聞き取りの結果

7.3　聞き取り内容の整理・考察

8　分析

8.1　地域集団が地域において果たす機能

8.2　地域集団の活動を困難になった要因

8.2.1　市町村合併以外の要因

8.2.2　市町村合併による要因

8.3　地域集団の衰退が地域に与える影響

8.4　地域集団が維持されるのに必要な条件

9　おわりに

［注］

［文献］